

山上多重塔（桐生市）

前方が山上多重塔の覆屋/赤城山麓の舌状台地の上に立っている



右手に標柱が立っている





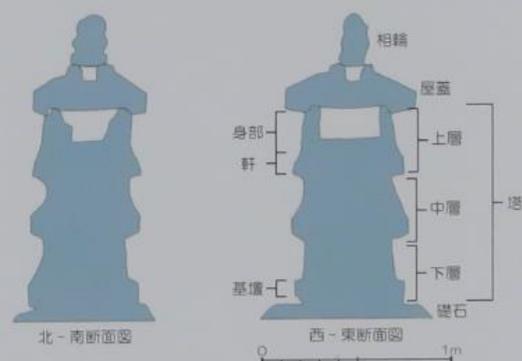
重要文化財

とうば
塔婆 石造三重塔

Important Cultural Properties
Three-story Stone Pagoda

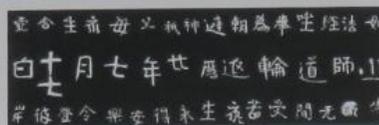


南面



塔婆断面図

銘文
右側に上段(西面・文字)、中段(西面・文字)、下段(西面・文字)へ記載します。
 願文(文字)の読み方
 上段(西面)の読み方 蓮花の御供養 正法興隆の御供養
 中段(西面)の読み方 母安得永 生家若受 間無□為
 下段(西面)の読み方 母安得永 生家若受 間無□為



塔身に刻まれた45文字の銘

東	西	南	北
雲合生家	母安得永	延朝為奉	坐経法如
日七月	七年廿	野延輪	道師小
岸彼登令	業安得永	生家若受	間無□為

名称及び員数	塔婆 石造三重塔 一基
指定年月日	昭和十八年六月九日
所在	桐生市新里町山上二五五番地
所有者	桐生市

塔婆(石造三重塔)は、通称、山上の多重塔といわれ、付近で産出する赤城火山起源の輝石安山岩を使用する。相輪・屋蓋(おくがい)・塔身・礎石からなり、それぞれ別の石で造られ、全体的には三重の仏塔を模している。屋蓋は、宝形造りで頂点には正方形の露盤が載せてあり、塔身は、一石から三層を造りだし身部(銘文のある部分)・軒・基壇からなる。

高さは百八十五センチメートルで、下層は幅四十八センチメートルでほぼ垂直に立ち上がり、中層と上層は「八」の字状に造られている。塔身には朱が塗られ、四十五の文字が刻まれており、読み方は、上層から右廻りに中層・下層と読む。そして、基壇と礎石ならびに屋蓋、相輪は塔身の朱を強調するように墨が塗られているのがわかる。

刻字の内容は、「朝廷や衆生(しゅうじょう)などのため、小師の道輪が法華経を安置する塔を建した。これにて、無間(むげん)八大地獄(はつだいちじく)の苦難より救われ、安業を得て彼岸(へりける)の境地(けいぢ)へ行ける」というものである。延暦二十年(801)七月十七日に建てられたこの供養塔は、平安時代初期の地方における仏教文化史上重要な石造物である。

平成二十七年三月 設置

文化庁
群馬県教育委員会
桐生市教育委員会

「重要文化財 塔婆」と刻まれている



平安時代初期における上野国の民間信仰の在り方を示す貴重な資料として、上野三碑と共に重要であると云う



塔の四面には、朝廷・神祇・父母・衆生の供養のために建てたとする旨の碑文が45字で刻まれている



こちらは高崎市に所在する、山ノ上碑が収められている覆屋/山ノ上碑には天武天皇10年(681年)の建碑と刻まれている

[video](#)



これはその右手に所在する山ノ上古墳/7世紀中頃築造の円墳/この墳頂に山ノ上碑が造立されていたと云う

[video](#)



山ノ上碑には、佐野三家（みやけ/屯倉は、6世紀～7世紀前半のヤマト王権の直轄領で、経営拠点）の子孫の娘「黒売刀自（くろめとじ）」が、「新川臣（にっかわのおみ）」（現桐生市の新川とされる）の子孫と結婚し、生まれた子の僧「長利（ちょうり）」が、「黒売刀自」を供養するためにこの山ノ上碑を造立たと刻まれていると云う/山上多重塔は桐生市の新川のすぐ近くに造立されていることから、山上多重塔と山ノ上碑との関連性が指摘されている

特別史跡 山上碑及び古墳

所在地 高崎市山名町二一〇四
 指定年月日 (史跡) 大正一〇(一九二一)年三月三日
 (特別史跡) 昭和二九(一九五四)年三月二〇日

■銘文

辛巳歲集月三日記

佐野三家定賜健守命孫黒売刀自此

新川臣兒斯多々弥足尼孫大兒臣斐生兒

長利僧母為記定文也 放光寺僧

■現代語訳

辛巳年(天武天皇一〇年||西暦六八一年)一〇月三日に記す。

佐野三家をお定めになった健守命の子孫の黒売刀自。これが、

新川臣の子の斯多々弥足尼の子孫である大兒臣に嫁いで生まれた

子である(わたくし)長利僧が、母(黒売刀自)の為に記し定めた文である。放光寺の僧。

■解説

山上碑は、輝石安山岩の自然石(高さ一一一センチ)に五三字を刻んだもので、天武朝の六八一年に立てられた

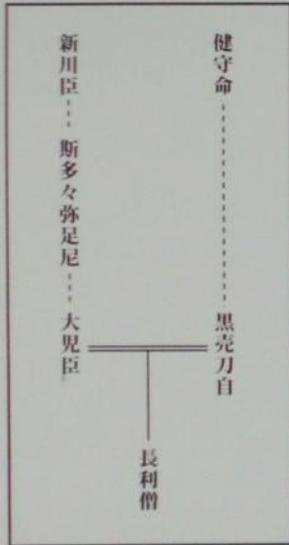
日本最古級の石碑である。放光寺の僧である長利が、亡き母の黒売刀自を供養するとともに、名族であった母と自分の系譜を記して顕彰したものである。黒売刀自は、碑の傍らにある山上古墳に埋葬されたと考えられる。

碑文にある三家(||屯倉)とは、六世紀～七世紀前半に各地の経済的・軍事的要地に置かれたヤマト政権の経営拠点である。佐野三家は高崎市南部の烏川兩岸(現在の佐野・山名地区一帯)にまたがって存在していたとみられ、健守命がその始祖に位置づけられている。

碑の造立者である長利は、健守命の子孫の黒売刀自が、赤城山南麓の豪族と推定される新川臣(現桐生市の新川か)の子孫の大兒臣(現前橋市の大胡か)と結婚して生まれた子である。彼が勤めた放光寺は、「放光寺」の文字瓦を出した前橋市総社町の山王廃寺だと推定される。この寺は、東国で最古級の寺院だったことが発掘調査で判明している。当時、仏教は新来の先進思想であり、長利は相当な知識者だったと考えられる。また、山上碑の形状は、朝鮮半島の新羅の石碑に類似しており、碑の造立に際しては渡来人も深く関わったと推定される。

なお、碑に隣接する山上古墳は、精緻な切石積み石室をもつ有力首長の墓であり、七世紀中頃の築造と考えられる。その築造時期は、山上碑(六八一年)よりも数十年古い。もともと黒売刀自の父の墓として造られ、後に黒売刀自を追葬(燔葬)したものと考えられる(白石太一郎説)。

以上のようにわずか五三文字から、ヤマト政権と地方の支配制度、豪族間の婚姻関係や家族制度、地方仏教の浸透など多くのことを読み取ることが可能であり、山上碑が一級の古代史料であることを証明しているのである。



山上碑に登場する人物の系譜

平成二三年二月二八日設置

高崎市教育委員会

山ノ上碑からは、ヤマト王権と地方の支配制度、豪族間の婚姻関係や家族制度、地方仏教の浸透など多くのことを読み取ることが可能と云う

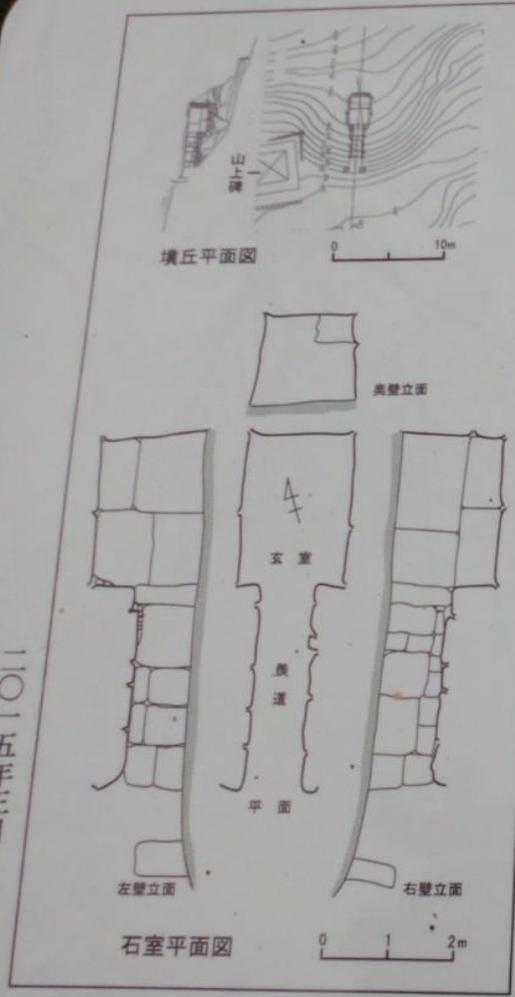


山ノ上古墳は20~30年古いため、この古墳は「長利」の祖父の墓として造られ、後に「長利」が「黒売刀自」を追葬したものと考えられている

特別史跡 山上古墳 (やまのうえこふん)

高崎市山名町二一〇四番地

本古墳は、七世紀中葉(飛鳥時代)に築かれた円墳であり、岩野谷丘陵東南端を流れる柳沢川の北岸に所在する。南斜面を掘り込み、本丘陵に産する凝灰岩の切石を用いた横穴式石室を設け、直径一・五メートル、高さ五メートルの山寄せ式の墳丘を構築している。石室全長は現状で約六メートルだが、羨道前端が改変されている。玄室は長さ二・七メートル、幅一・八メートル、高さ一・七メートル、羨道は長さ三・三メートル以上、幅〇・九メートル、高さ〇・九メートルを計測する。玄室の奥壁はほぼ一石、側壁四石、天井二石から成り、精緻に構築される。古くに開口したため出土品は不詳であり、石室内には中世の石造物が置かれている。傍らにある山上碑の碑文から推定すると、本古墳は高崎市南部に置かれた佐野三家(屯倉)の経営に連なる山名地域(山名伊勢塚古墳(前方後円墳・墳長六・五メートル・六世紀後半))に後続する首長墓だが、造墓地は丘陵部に移動し、終末期古墳特有の立地を志向している。本古墳のように、被葬者の名や葬送制度が推定できる古墳は日本でもきわめて希少であるため、隣接の山上碑とともに国特別史跡に指定されている。



二〇一五年三月
高崎市教育委員会

その「長利」は放光寺に務めていたと云い、「放光寺」の文字瓦が山王廃寺（7世紀後半建立の古代寺院/前橋市）から出土している



ちなみに、前方は中塚古墳（7世紀後半築造の方墳/桐生市）で、当時この付近一帯を支配した権力者である新川臣の墳墓と考えられている



参考ホームページ

<http://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/spot/niisato/1001846.html>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kp-yamagamitou.html>

<https://buddhist-study.iimdfree.com/%E6%9C%80%E6%BE%84%E3%81%A8%E9%81%93%E5%BF%A0%E4%B8%80%E9%96%80-%E5%B1%B1%E4%B8%8A%E5%A4%9A%E9%87%8D%E5%A1%94%E3%81%AE%E3%81%8B%E3%81%AA%E3%81%9F%E3%81%AB-1/>

<https://mukidouan.exblog.jp/16876041/>

<https://katana04.blog.fc2.com/blog-entry-1527.html>

<http://abe6014.blog.fc2.com/blog-entry-304.html>

<https://tigerdream-no.blog.jp/archives/8346074.html>

<https://minowa1059.wiki.fc2.com/wiki/%E4%B8%8A%E9%87%8E%EF%BC%93%E7%A2%91%E3%81%A8%E5%A4%9A%E9%87%8D%E5%A1%94>

